

信州大学知の森基金を活用したグローバル人材育成のための短期学生海外派遣プログラム  
実施状況および成果

プログラム名	クリニカルクラークシップⅡ 選択臨床実習海外派遣プログラム	
学部・研究科名	医学部医学科	
プログラム実施期間	インドネシア・ウダヤナ大学 2019年5月31日～6月30日 インドネシア・ディボネゴロ大学 2019年6月7日～6月29日 タイ・マヒドン大学 2019年6月2日～6月29日	
研修先(国・都市・施設名)	インドネシア(テンパザール・ウダヤナ大学、スマラン・ディボネゴロ大学) タイ(バンコク・マヒドン大学)	
参加学生数	5名	知の森からの支援者 5名
プログラム概要	本学科は基本理念の中で国際交流に寄与することを掲げており、グローバルな医師養成を推進し、国際的な視野を備えて臨床ならびに研究的研鑽を続けられる医師を育てることを目標としてきた。医療において中心的役割を担うリーダーを養成するためには、医療に関して世界規模の広い視野を備えることが必須である。そこで本プログラムでは、学生にグローバルな臨床・研究環境を経験を提供することによって、卒後に国際的に活躍できる医療人として必要な経験を積ませるために、全ての座学と臨床実習を終えて卒前教育の最終段階にあるクリニカルクラークシップⅡの参加学生を対象にして、アカデミックランゲージが英語である協定校に学生を派遣し、現地大学の臨床実習に参加させる。	

実施状況・成果

2カ国の3協定校に学生を派遣し、現地大学の臨床実習に参加させた(タイ・マヒドン大学ラマティボディ病院医学部2名、インドネシア・ウダヤナ大学医学部2名、インドネシア・ディボネゴロ大学医学部1名)。

選抜した学生は全員がCEFR B1以上の英語力を有しており、一定の英語力を前提に、現地教員や学生と積極的な交流を通して現地の医療現場で実習を行った。専門用語を用いた英語コミュニケーションは日本国内ではほぼ経験できないものであり、「医療専門家として英語を現場で使う」ことに大いに習熟できた。

診療内容としては、実習先はいずれも各地域の中核病院であり、熱帯特有の病原体を中心にした感染症(結核患者・HIV患者、レプトスピラ症、デング熱、寄生虫症など)を経験することができた。また救急においては日本で言う三次救急施設でもあり、重症な患者さんが多かった。また、医学生が医療スタッフの戦力として捉えられており、医学生も週に2回ほどの当直があった。医療水準自体は日本の方が高いと考えられたものの、現地の医学生は日本における研修医レベルの知識・技術を持っており、国家試験勉強にとどまらない医療・勉強に対する心構えの重要性を再認識するよい機会となった。

生活面では、日本と異なる衛生状態や食生活に戸惑う面もあったが、生活環境の多様性に触れられたことは、今後様々な人々を相手にする医療専門職としては有意義な体験であったといえる。特にインドネシア・ディボネゴロ大学では、地域医療実習に参加した者はムスリムの現地学生と共同生活することで独自の文化を深く知ることができた。

帰国後5名の報告会を行い、上記の通り充実した実習を行うことで上記の目標を達成できたと判断した。また、帰国後に実施された臨床実習後OSCE(実技試験)では、5名とも良好な成績を修めており、本実習の成果が得られたと考えられた。

学生の声①-医学部医学科 学生

今回の留学では、小児の熱帯感染症、特にデング熱について学ぶことができた。その他にも、産婦人科においての手術を日本とインドネシアで比較して学ぶこともできたが、今回の留学で得られた大きなことは、医療・勉強に対する心構えと医療英語の重要性を再認識できたことである。日本の医学部では、学内の試験・国家試験は試験への対策をして勉強すれば合格できてしまうため、病態を深く考えずに済んでしまい、また英語の論文を読んでそれを参考にすると、ということなく学生生活を終わってしまうことも可能である。しかし現地の学生から、医師になるにおいて、最新の論文を自分で見つけ最もエビデンスの高いものを探し、病態を深く考え理解した上で診療に役立てていくことが大切であるということを変更して学ぶことができた。

留学の理由は人それぞれであるが、有意義なものにするために、まず準備をしっかりとした上で留学に臨み、現地でも情性で過ごすことなく自発的に学んでいくことが大切だと思う。知の森基金の認知度が上がることで、金銭面を理由に留学を諦める人が少しでも減ってくればよい。

学生の声②-医学部医学科 学生

留学先で見たことのないものを体験する、未知の文化に触れるということもありましたが、自分にとっては留学をすると決めてから留学を終えるまでのプロセスが全て自分の良い経験になりました。今まで英語に触れたり、海外の方と交流する機会は全く無かったのですが、行く決めて英会話を始めたり、東南アジアに単独旅行に挑戦したりしました。それら全てが籠ろうとしていた自分を変えてくれたと思います。留学をする際にお金は考慮すべき大事な事柄です。航空券・宿泊代・食事代だけでなく、渡航用のワクチン、ビザ、海外渡航保険など予想外の出費が多く発生します。そのような予想外の出費に対して知の森基金に非常に助けられました。一度しかない大学生活のうちに海外に行って成長させてくれる支援を受けられるのは非常に恵まれていると思います。是非チャレンジしてみてください

インドネシア・ウダヤナ大学医学部実習修了式



インドネシア・ディボネゴロ大学医学部における研修

